

ヤングケアラーに関するアンケート調査

報告書

令和7年3月
八戸市こども健康部 こども家庭相談室

目次

1 調査の背景および目的	1
2 調査の対象および方法	
2.1 調査対象	1
2.2 調査方法	1
2.3 調査期間	1
3 調査の結果	
3.1 回答数	2
3.2 調査結果（単純集計）	
問1. あなたの学年を教えてください。	2
問2. あなたがいっしょに住んでいるのはどなたですか。	3
問3. 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。	4
問4. あなたがお世話をしている人はどなたですか。	5
問5. お世話を必要としている人の状況（お世話が必要な理由）について教えてください。	6
問6. あなたはお世話が必要な家族にどのようなお世話をしていますか。	7
問7. あなたはどのくらいお世話をしていますか。	8
問8. 学校のある平日にどのくらいお世話をしていますか。	9
問9. お世話をしていることで自分の生活にどのようなえいきょうが出ていると 思いますか。	10
問10. 次のうち、利用したいと思う支援サービスはありますか。	11
問11. お世話を必要としている家族のことや、お世話のなやみを誰かに相談した ことがありますか。	12
問12. 問11で「1. ある」と回答した人にお聞きします。それは誰ですか。	13
問13. 問11で「2. ない」と回答した人にお聞きします。相談していない理由 を教えてください。	14
問14. どのような方法で話を聞いてほしい、相談にのってほしいですか。	15
問15. あなた自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思いますか。	16
問16. 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありますか。	17
問17. 「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。	18
3.3 調査結果（クロス集計）	
・お世話が必要な人数 × ヤングケアラーにあてはまると思うか	19
・お世話の頻度 × ヤングケアラーにあてはまると思うか	20
・お世話の時間 × ヤングケアラーにあてはまると思うか	21

・お世話をしていることの影響 × ヤングケアラーにあてはまると思うか	21
・支援の要望 × 相談経験	22
・相談していない理由 × ヤングケアラーにあてはまると思うか	23

4まとめと考察

4.1 調査結果のまとめ

4.1.1 ヤングケアラーと思われるこどもについて	24
4.1.2 こども自身の認識について	24
4.1.3 支援の要望と相談経験について	24
4.1.4 相談経験がない理由について	25
4.1.5 希望する相談方法について	25
4.2 今後の取組と課題	
4.2.1 こども向けの啓発と相談対応	26
4.2.2 支援者向けの啓発	26
4.2.3 関係機関との連携	26

5 アンケート用紙 27

1 調査の背景および目的

令和6年6月に子ども・若者育成支援推進法が改正され、国や地方公共団体が支援に努めるべき対象としてヤングケアラーが明記されました。

ヤングケアラーとは、家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子どものことで、責任や負担の重さにより、学業や友人関係などに影響が出てしまうことが懸念されています。

市では、ヤングケアラーの子どもや家庭をいち早く発見し、支援につなげる取組を行っているところです。しかしながら、ヤングケアラーの課題は、社会的認知度の低さや家庭内のデリケートな問題であること、また、本人や家族の認識の低さなどにより、家庭の実態を把握することがなかなか難しい状況にあります。

そのため、より良い支援の方策を検討するためには、当市におけるヤングケアラーの傾向や支援ニーズを把握する必要があると考えました。そこで、市内の小中学生を対象として、実態を把握するとともに、ヤングケアラーの子ども自身に気づきを与えることを目的として、家族の世話に関するアンケートを実施しました。

2 調査の対象および方法

2.1 調査対象

市立小学校に在籍する小学5年生～6年生	3,436人
市立中学校に在籍する中学1年生～3年生	5,385人
計	8,821人

2.2 調査方法

- ・タブレットを使用した電子アンケート
(調査期間内に一定の時間を取りいただき学校内で実施)
- ・任意回答の無記名式アンケート

2.3 調査期間

令和6年9月中旬～同9月30日

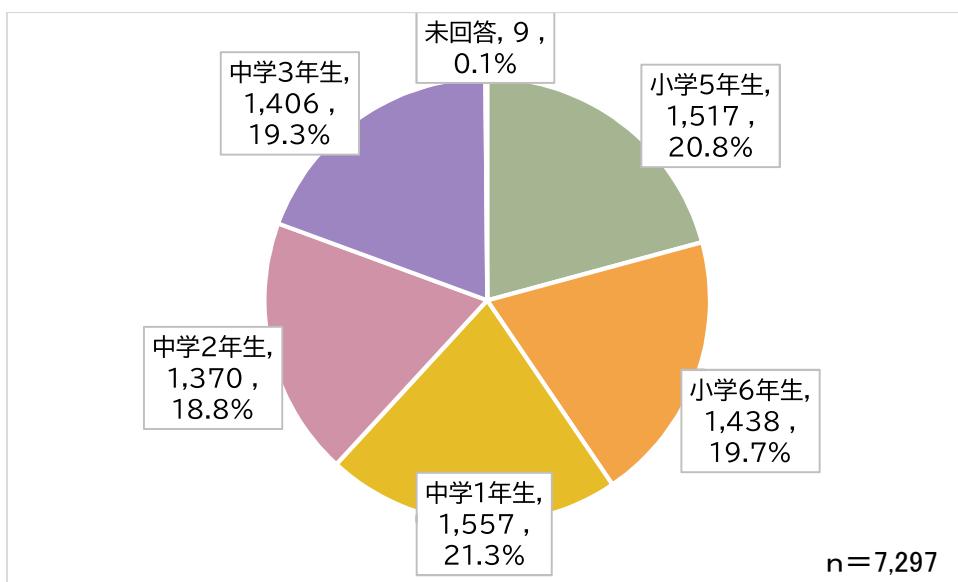
3 調査の結果

3.1 回答数

市立小学校に在籍する小学5年生～6年生	2,955人（回答率86.0%）
市立中学校に在籍する中学1年生～3年生	4,333人（回答率80.5%）
学年のみ未回答	9人
計	7,297人（回答率82.7%）

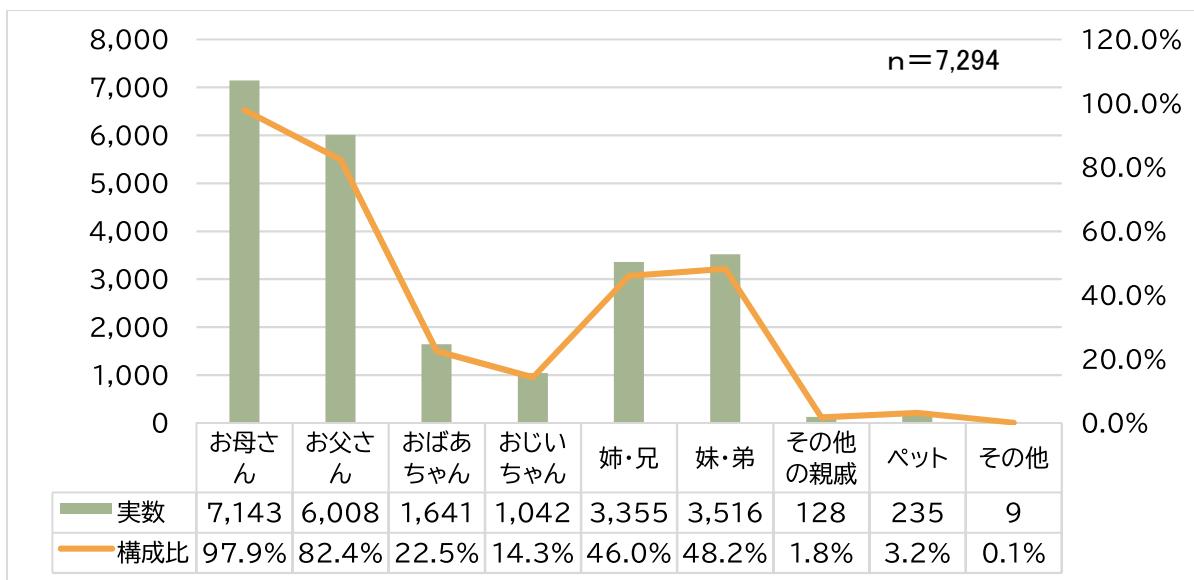
3.2 調査結果（単純集計）

問1．あなたの学年を教えてください。



	合計	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	未回答
実数	7,297	1,517	1,438	1,557	1,370	1,406	9
構成比	100%	20.8%	19.7%	21.3%	18.8%	19.3%	0.1%

問2．あなたがいっしょに住んでいるのはどなたですか。（あてはまる番号すべてを選ぶ）



小学6年生

	全体	お母さん	お父さん	おばあちゃん	おじいちゃん	姉・兄	妹・弟	その他の親戚	ペット	その他
実数	1,438	1,405	1,206	315	211	715	708	26	37	2
構成比		97.7%	83.9%	21.9%	14.7%	49.7%	49.2%	1.8%	2.6%	0.1%

中学2年生

	全体	お母さん	お父さん	おばあちゃん	おじいちゃん	姉・兄	妹・弟	その他の親戚	ペット	その他
実数	1,370	1,339	1,124	323	199	627	650	22	52	2
構成比		97.7%	82.0%	23.6%	14.5%	45.8%	47.4%	1.6%	3.8%	0.1%

【国、県の先行調査との比較】小学6年生

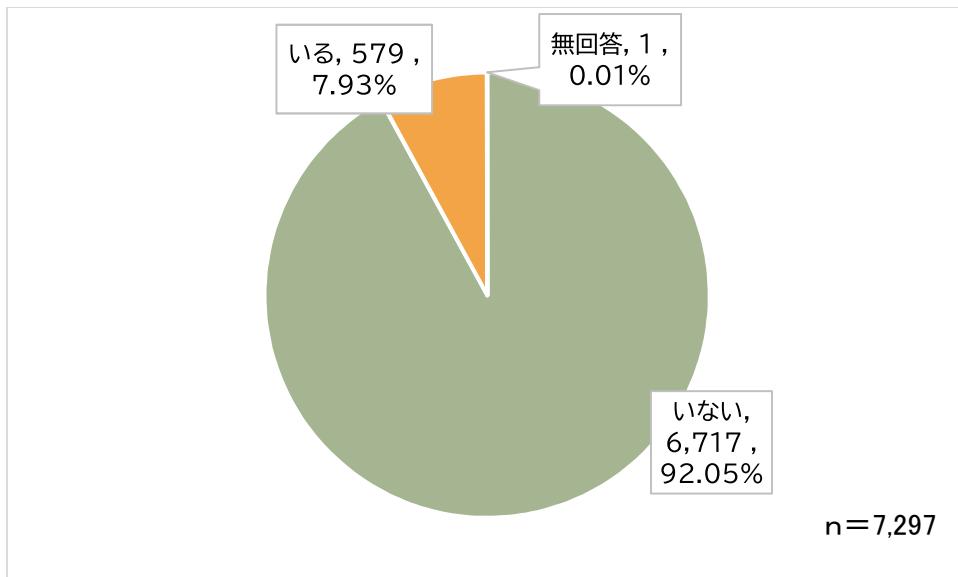
	母親	父親	祖母	祖父	姉・兄	妹・弟	その他
国	97.4%	87.3%	16.3%	11.0%	48.2%	48.8%	2.5%
青森県	97.8%	82.7%	30.7%	22.0%	47.2%	48.6%	5.0%
八戸市	97.7%	83.9%	21.9%	14.7%	49.7%	49.2%	4.5%

【国、県の先行調査との比較】中学2年生

	母親	父親	祖母	祖父	姉・兄	妹・弟	その他
国	97.5%	85.4%	16.5%	10.9%	43.7%	50.7%	1.9%
青森県	96.7%	80.7%	30.8%	20.7%	43.7%	48.0%	6.5%
八戸市	97.7%	82.0%	23.6%	14.5%	45.8%	47.4%	5.5%

- ・「母親」が最も高く、次いで「父親」、「妹・弟」、「姉・兄」という国・県の先行調査と同様の順でした。
- ・国の先行調査と比較すると、県と同様、祖父母と同居している割合が高くなっていました。
- ・「姉・兄」について、学年が上がるにつれ同居している割合が低くなっています。

問3．家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。



お世話が必要な人	人数	構成比
いない	6,717	92.05%
いる	579	7.93%
無回答	1	0.01%
合計	7,297	100.00%

【国の先行調査との比較】中学2年生		
お世話が必要な人	国	八戸市
いない	93.6%	94.3%
いる	5.7%	5.7%
無回答	0.6%	0.0%

	小学5年生		小学6年生		中学1年生		中学2年生		中学3年生	
お世話が必要な人	人数	構成比								
いない	1,299	85.63%	1,319	91.72%	1,448	93.00%	1,292	94.31%	1,350	96.02%
いる	218	14.37%	118	8.21%	109	7.00%	78	5.69%	56	3.98%
無回答	0	0.00%	1	0.07%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
合計	1,517		1,438		1,557		1,370		1,406	

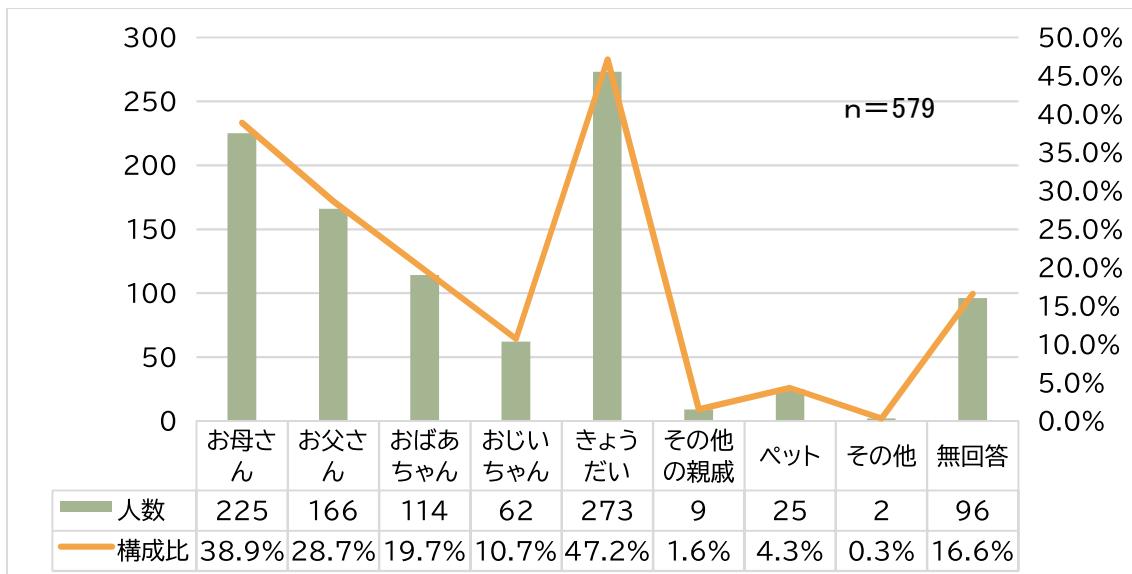
お世話が必要な人の人数	人数	構成比
0人	6,780	92.91%
1人	300	4.11%
2人	122	1.67%
3人	62	0.85%
4人	21	0.29%
5人	10	0.14%
6人	2	0.03%
合計	7,297	100.00%

・中学2年生でお世話の必要な人が「いる」と回答した割合は5.7%で、国と同じ割合でした。小学5年生から中学3年までの全体の結果は、7.9%となりました。

・お世話が必要な人数は、「1人」との回答が最も多く、4.1%でした。

※問3を「いる」、問4を未回答とした場合、お世話が必要な人数は0人と計上しました。

問4．あなたがお世話をしている人はどなたですか。（あてはまる番号すべてを選ぶ）

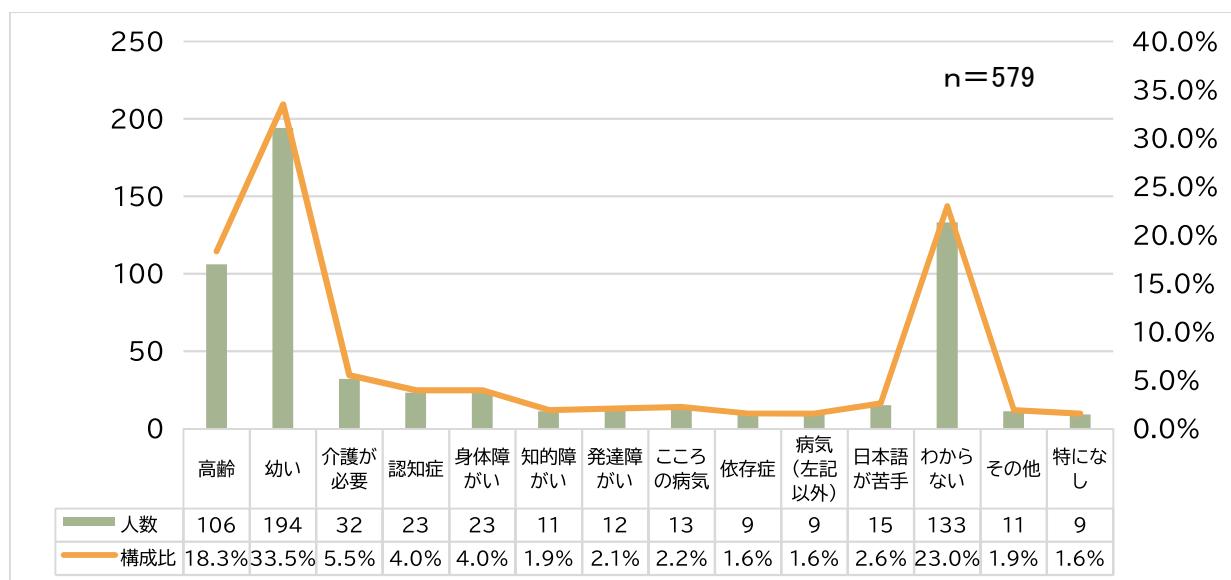


	小学5年生		小学6年生		中学1年生		中学2年生		中学3年生	
	人数	構成比								
お母さん	88	40.4%	48	40.7%	48	44.0%	24	30.8%	17	30.4%
お父さん	67	30.7%	34	28.8%	37	33.9%	17	21.8%	11	19.6%
おばあちゃん	39	17.9%	31	26.3%	20	18.3%	17	21.8%	7	12.5%
おじいちゃん	25	11.5%	17	14.4%	7	6.4%	8	10.3%	5	8.9%
きょうだい	104	47.7%	59	50.0%	52	47.7%	30	38.5%	28	50.0%
その他の親戚	6	2.8%	1	0.8%	1	0.9%	0	0.0%	1	1.8%
ペット	8	3.7%	4	3.4%	6	5.5%	3	3.8%	4	7.1%
その他	1	0.5%	0	0.0%	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	31	14.2%	17	14.4%	20	18.3%	21	26.9%	7	12.5%
全体	218		118		109		78		56	

※家庭内にお世話の必要な人が「いる」と答えた回答者人数（n）を分母としています。

- ・お世話が必要な人は「きょうだい」の割合が最も高く（47.2%）、次いで「母親」（38.9%）、「父親」（28.7%）、「祖母」（19.7%）、「祖父」（10.7%）の順でした。
- ・学年が違うと割合は変わるものとの、順番は変わりませんでした。

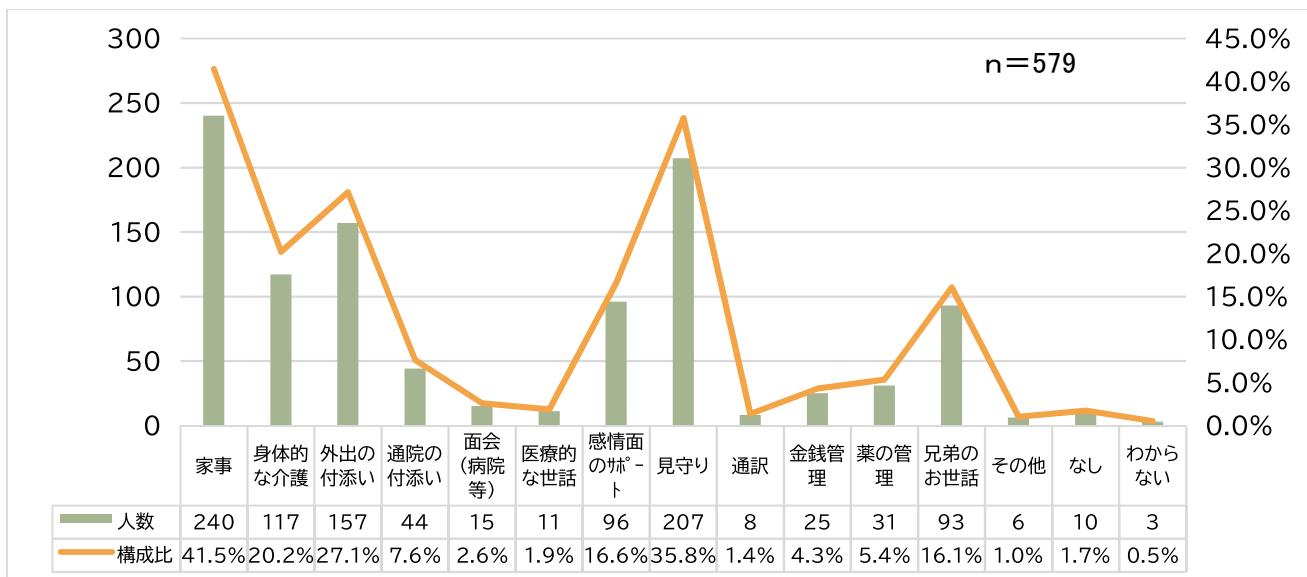
問5．お世話を必要としている人の状況（お世話が必要な理由）について教えてください。お世話をする人が何人かいる場合には、あてはまる番号すべてを選んでください。



※家庭内にお世話の必要な人が「いる」と答えた回答者人数（n）を分母としています。

- ・お世話が必要な理由は「幼い」の割合が最も高く（33.5%）、次いで「わからない」（23.0%）、「高齢」（18.3%）の順でした。
- ・「わからない」と回答する割合は、学年が上がるにつれ低くなっていました。
- ・「その他」には、「忙しい」「体調不良」「妊娠」などが挙げられました。

問6．あなたはお世話を必要な家族にどのようなお世話をしていますか。
お世話をする人が何人かいいる場合には、あてはまる番号すべてを選んでください。

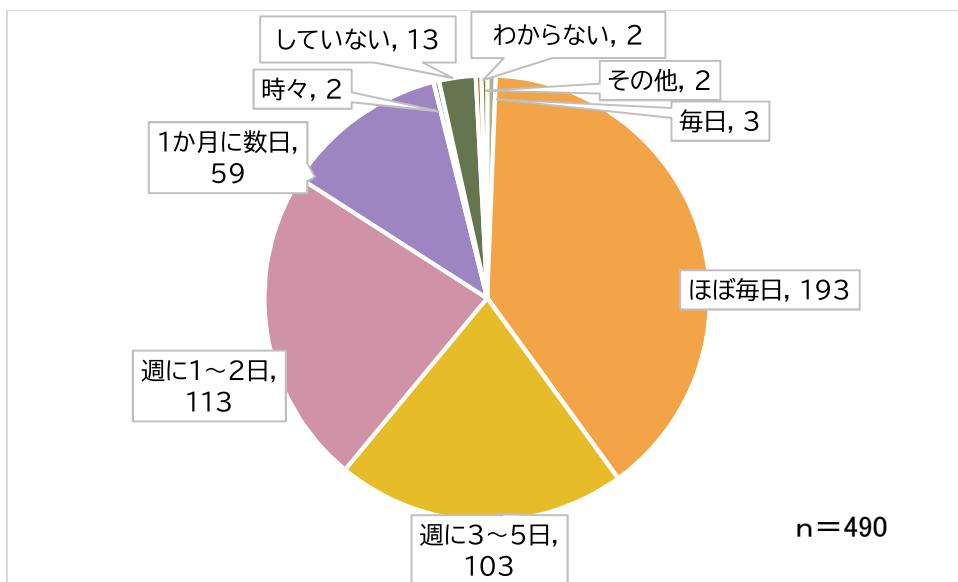


	小学5年生		小学6年生		中学1年生		中学2年生		中学3年生	
	人数	構成比								
家事	92	42.2%	45	38.1%	53	48.6%	30	38.5%	20	35.7%
身体的な介護	42	19.3%	20	16.9%	22	20.2%	19	24.4%	14	25.0%
外出の付添い	56	25.7%	38	32.2%	27	24.8%	21	26.9%	15	26.8%
通院の付添い	15	6.9%	9	7.6%	8	7.3%	7	9.0%	5	8.9%
面会(病院等)	4	1.8%	2	1.7%	2	1.8%	5	6.4%	2	3.6%
医療的な世話	2	0.9%	2	1.7%	4	3.7%	0	0.0%	3	5.4%
感情面のサポート	24	11.0%	20	16.9%	27	24.8%	13	16.7%	12	21.4%
見守り	64	29.4%	34	28.8%	49	45.0%	28	35.9%	32	57.1%
通訳	2	0.9%	2	1.7%	1	0.9%	3	3.8%	0	0.0%
金銭管理	12	5.5%	4	3.4%	4	3.7%	2	2.6%	3	5.4%
薬の管理	12	5.5%	6	5.1%	5	4.6%	5	6.4%	3	5.4%
兄弟のお世話	33	15.1%	22	18.6%	18	16.5%	12	15.4%	8	14.3%
その他	3	1.4%	3	2.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
なし	4	1.8%	3	2.5%	3	2.8%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	2	0.9%	0	0.0%	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%
全体	218		118		109		78		56	

※家庭内にお世話の必要な人が「いる」と答えた回答者人数（n）を分母としています。

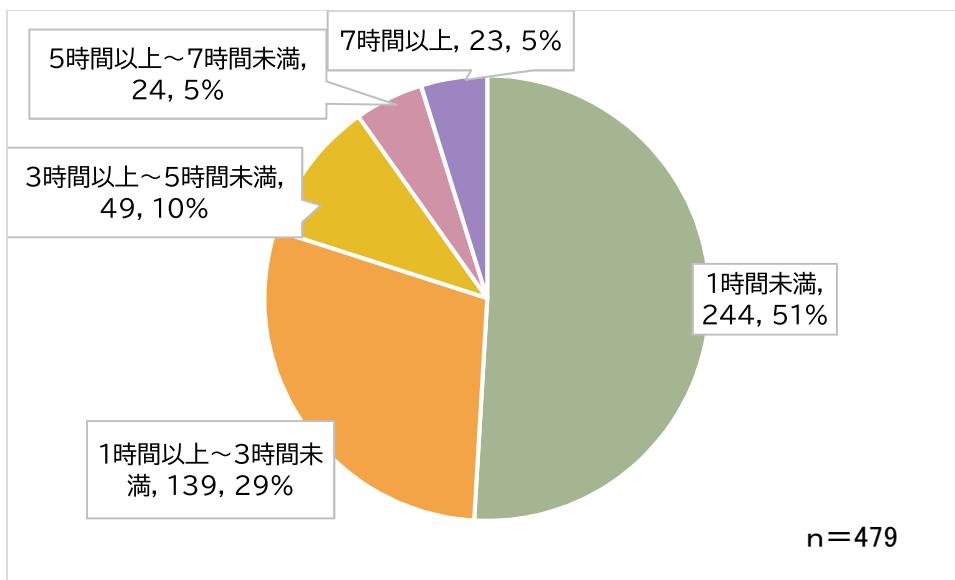
- ・お世話の内容は「家事」の割合が最も高く（41.5%）、次いで「見守り」（35.8%）、「外出の付き添い」（27.1%）の順でした。
- ・学年の違いによる一貫した傾向は見られませんでしたが、「身体的な介護」のみ、学年が上がるにつれ割合が高くなる傾向が見られました。
- ・「その他」には、「遊び相手」「ペットの世話」などが挙げられました。

問7．あなたはどのくらいお世話をしていますか。



- お世話の頻度は「ほぼ毎日」の割合が最も高く（39.4%）、次いで「週に1～2日」（23.1%）、「週に3～5日」（21.0%）の順でした。
- 「その他」には、「年に1回」「気分次第」が挙げられました。

問8．学校のある平日にどのくらいお世話をしていますか。

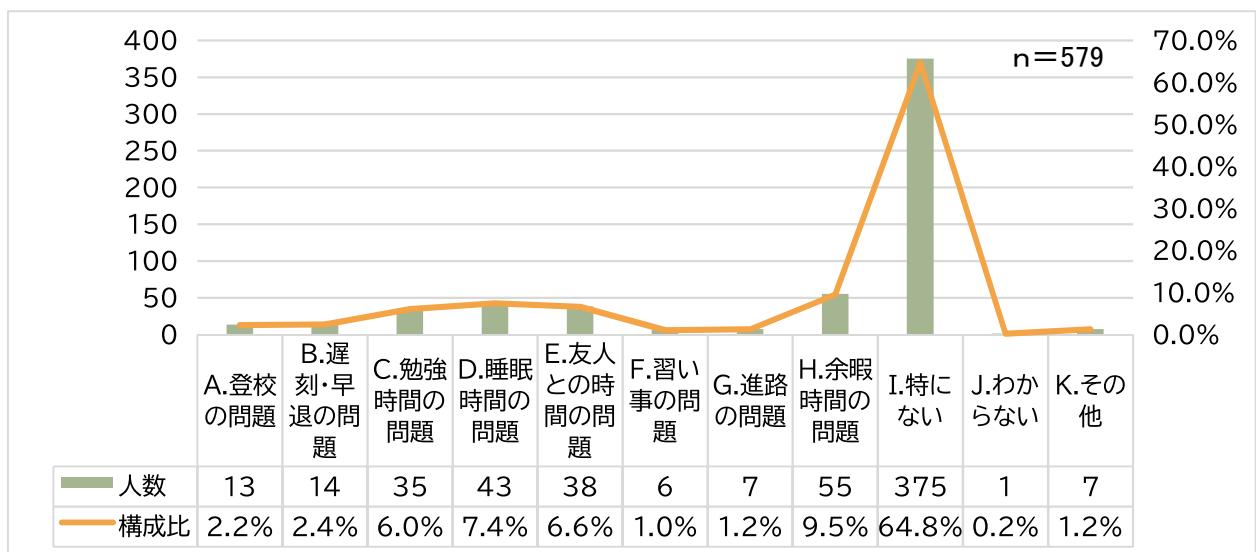


	人数	構成比
1時間未満	244	50.9%
1時間以上～3時間未満	139	29.0%
3時間以上～5時間未満	49	10.2%
5時間以上～7時間未満	24	5.0%
7時間以上	23	4.8%
合計	479	

・お世話の時間は「1時間未満」の割合が最も高く（50.9%）、次いで「1時間以上～3時間未満」（29.0%）、「3時間以上～5時間未満」（10.2%）の順でした。

・「5時間以上～7時間未満」と「7時間以上」はほぼ同数でした。5時間以上お世話している児童がどの学年にも存在していました。

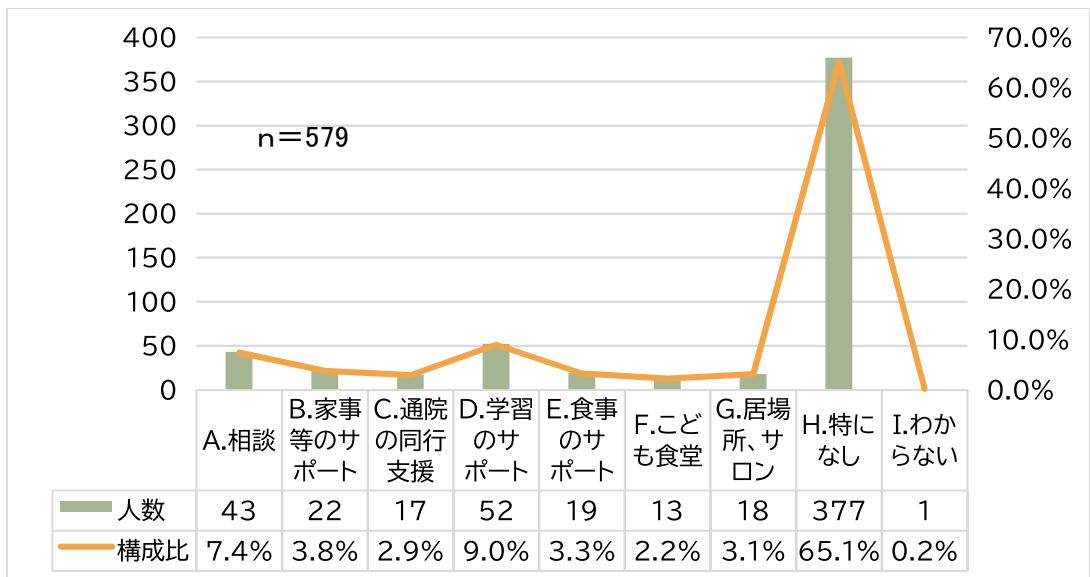
問9．お世話をしていることで自分の生活にどのようなえいきょうが出ていると思いますか。(あてはまる番号すべてを選ぶ)



	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生					
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
A.学校に行きたくても行けない	4	1.8%	3	2.5%	1	0.9%	4	5.1%	1	1.8%
B.学校を遅刻・早退してしまう	7	3.2%	3	2.5%	0	0.0%	3	3.8%	1	1.8%
C.宿題をする時間や勉強する時間がとれない	15	6.9%	4	3.4%	6	5.5%	5	6.4%	5	8.9%
D.睡眠が十分とれない	15	6.9%	10	8.5%	9	8.3%	4	5.1%	5	8.9%
E.友人と遊ぶことができない	14	6.4%	9	7.6%	6	5.5%	5	6.4%	4	7.1%
F.習い事ができない、または、やめなければならなかった	4	1.8%	2	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
G.進路の変更を考えなければならなかった、または、変更した	1	0.5%	2	1.7%	0	0.0%	1	1.3%	3	5.4%
H.自分の時間がとれない	22	10.1%	11	9.3%	9	8.3%	6	7.7%	7	12.5%
I.特にない	137	62.8%	77	65.3%	79	72.5%	48	61.5%	34	60.7%
J.わからない	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%
K.その他	4	1.8%	0	0.0%	2	1.8%	0	0.0%	1	1.8%
全体	218		118		109		78		56	

- お世話の必要な人が「いる」と回答した児童のうち、64.8%がお世話に伴う自分の生活への影響は「特にない」と回答しました。
- 「特にない」と未回答を合わせると79%となり、影響として1つ以上の選択肢を選択し回答したのは21%でした。
- 勉強や睡眠、自分のための「時間がとれない」との回答が6%～9.5%ありました。
- 「その他」には、「やる気が出ない」「いらっしゃる」「幸せになっている」などが挙げられました。

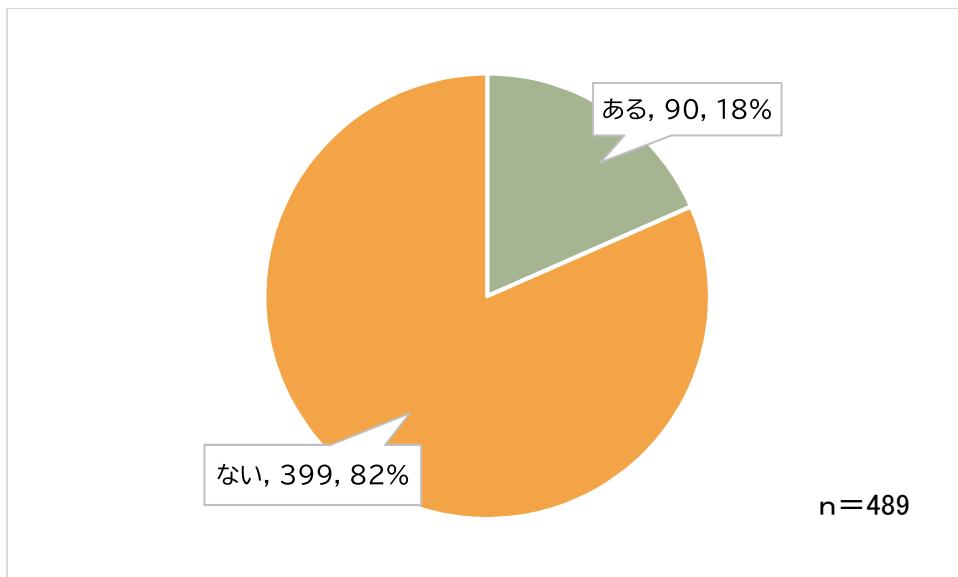
問 10. 次のうち、利用したいと思う支援サービスはありますか。（あてはまる番号すべてを選ぶ）



	小学5年生	人数	構成比	小学6年生	人数	構成比	中学1年生	人数	構成比	中学2年生	人数	構成比	中学3年生	人数	構成比
A.家族や自分のことについての相談	19	8.7%		9	7.6%		4	3.7%		6	7.7%		5	8.9%	
B.家事やお世話のサポート	1	0.5%		6	5.1%		7	6.4%		1	1.3%		7	12.5%	
C.通院などの同行支援	6	2.8%		3	2.5%		1	0.9%		2	2.6%		5	8.9%	
D.学習のサポート	20	9.2%		11	9.3%		9	8.3%		6	7.7%		6	10.7%	
E.食事の準備や弁当の宅配(こども食堂除く)	7	3.2%		3	2.5%		3	2.8%		2	2.6%		4	7.1%	
F.こども食堂	3	1.4%		5	4.2%		1	0.9%		1	1.3%		3	5.4%	
G.居場所、サロン	6	2.8%		3	2.5%		3	2.8%		1	1.3%		5	8.9%	
H.特になし	141	64.7%		74	62.7%		80	73.4%		47	60.3%		35	62.5%	
I.わからない	0	0.0%		0	0.0%		1	0.9%		0	0.0%		0	0.0%	
全体	218			118			109			78			56		

- ・お世話の必要な人が「いる」と回答した児童のうち、65.1%が利用したいと思う支援サービスは「特になし」と回答しました。
- ・利用したいと思う支援サービスとしては、「学習のサポート」(9.0%)、「家族や自分のことについての相談」(7.4%)、「家事やお世話のサポート」(3.8%) の順でした。

問 11. お世話を必要としている家族のことや、お世話のなやみを誰かに相談したことはありますか。



	小学5年生		小学6年生		中学1年生		中学2年生		中学3年生	
	人数	構成比								
ある	39	17.7%	28	22.4%	14	11.5%	4	4.8%	5	8.8%
ない	149	67.7%	74	59.2%	83	68.0%	52	62.7%	41	71.9%
未回答	32	14.5%	23	18.4%	25	20.5%	27	32.5%	11	19.3%
全体	220		125		122		83		57	

【国、県の先行調査との比較】小学6年生

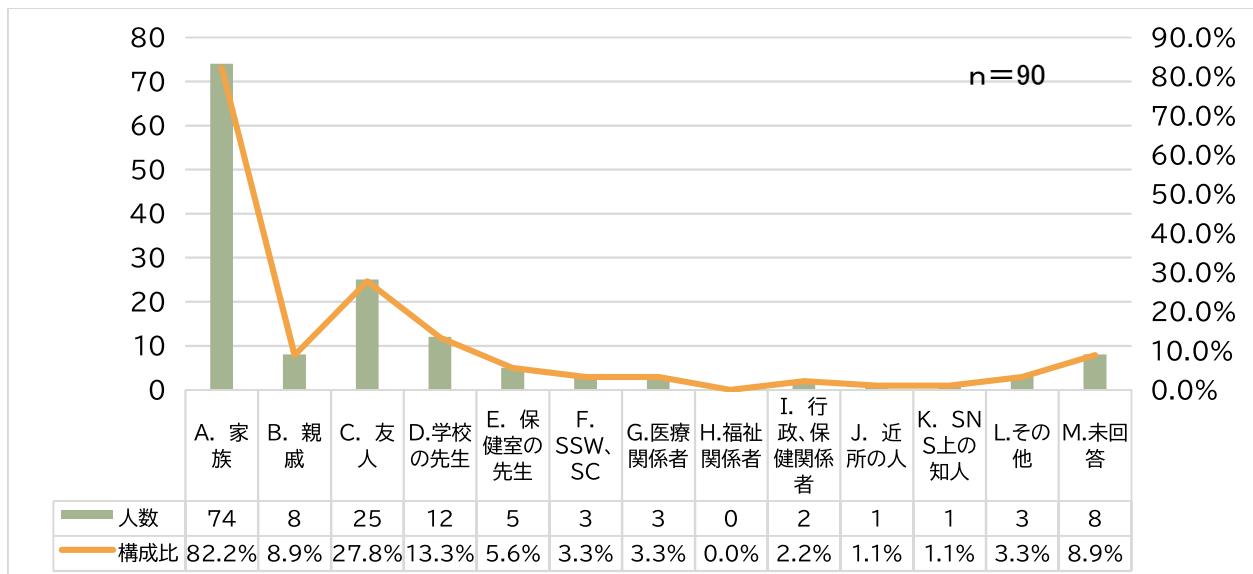
相談経験	国	青森県	八戸市
ある	17.3%	19.6%	22.4%
ない	76.1%	80.4%	59.2%
未回答	6.7%	0.0%	18.4%

【国、県の先行調査との比較】中学2年生

相談経験	国	青森県	八戸市
ある	21.6%	19.6%	4.8%
ない	67.7%	80.1%	62.7%
未回答	10.7%	0.3%	32.5%

- ・お世話について相談した経験について、82%が「ない」と回答しました。
- ・県の先行調査と比較し、相談経験が「ない」との回答割合がわずかに高くなっていました。(県:「ある」20.1%、「ない」79.8%、未回答0.1%)。
- ・「ある」と回答した児童の割合は、小学校より中学校の方が低くなっています。

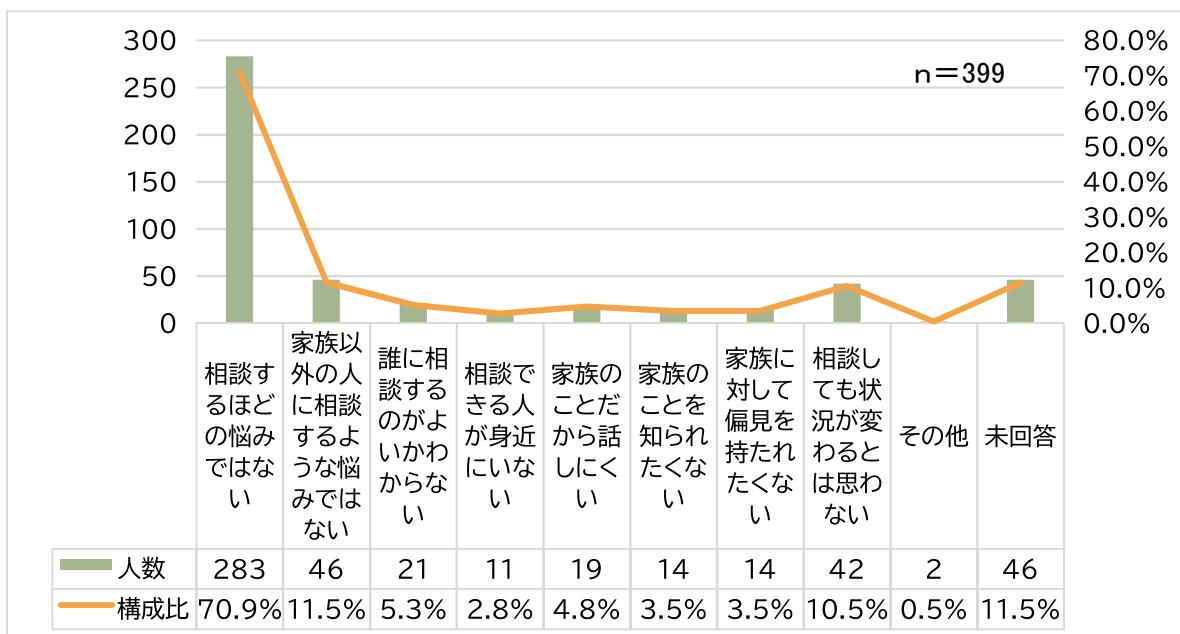
問 12. 問 11 で「1. ある」と回答した人にお聞きします。それは誰ですか。
 (あてはまる番号すべてを選ぶ)



	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生					
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
A. 家族(父母、祖父母、きょうだい)	32	82.1%	23	82.1%	11	78.6%	5	125.0%	3	60.0%
B. 親戚(おじ、おばなど)	3	7.7%	2	7.1%	2	14.3%	0	0.0%	1	20.0%
C. 友人	9	23.1%	7	25.0%	5	35.7%	2	50.0%	2	40.0%
D. 学校の先生(保健室の先生以外)	5	12.8%	2	7.1%	2	14.3%	2	50.0%	1	20.0%
E. 保健室の先生	0	0.0%	3	10.7%	0	0.0%	1	25.0%	1	20.0%
F. スクール・シャルーカーやスクールカウンセラー	1	2.6%	1	3.6%	1	7.1%	0	0.0%	0	0.0%
G. 医師、看護師、その他病院の人	2	5.1%	1	3.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
H. ヘルパー、福祉サービスの人	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
I. 役所や保健センターの人	0	0.0%	2	7.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
J. 近所の人	0	0.0%	1	3.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
K. SNS上の知り合い	0	0.0%	0	0.0%	1	7.1%	0	0.0%	0	0.0%
L. その他	0	0.0%	1	3.6%	1	7.1%	0	0.0%	1	20.0%
M. 未回答	5	12.8%	3	10.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
全体会計	39		28		14		4		5	

- 相談相手は「家族(父母、祖父母、きょうだい)」の割合が最も高く(82.2%)、次いで「友人」(27.8%)、「学校の先生(保健室の先生以外)」(13.3%)の順でした。
- 「医療関係者(医師、看護師、その他病院の人)」や「行政、保健関係者(役所や保健センターの人)」と比べると、学校関係者(「先生」「保健室の先生」「SSW・SC」)に相談経験があるとの回答が多くなりました。
- 「その他」には、「習い事の先生」「児童相談所」などが挙げられました。

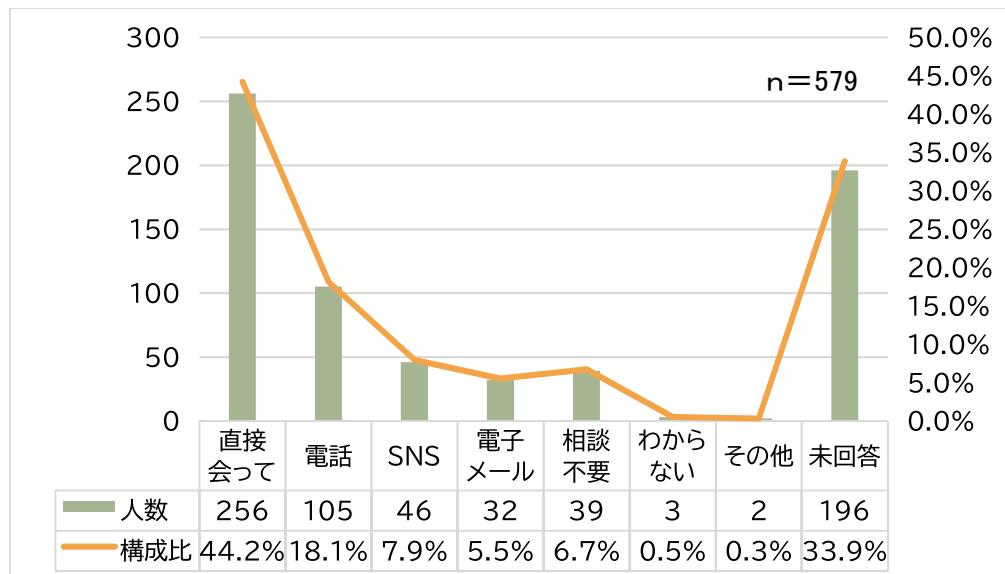
問 13. 問 11 で「2. ない」と回答した人にお聞きします。相談していない理由を教えてください。(あてはまる番号すべてを選ぶ)



	小学5年生		小学6年生		中学1年生		中学2年生		中学3年生	
	人数	構成比								
相談するほど の悩みではない	94	63.1%	57	77.0%	61	73.5%	38	73.1%	33	80.5%
家族以外の人に相談する ような悩みではない	16	10.7%	8	10.8%	11	13.3%	7	13.5%	4	9.8%
誰に相談する のがよいかわ からない	9	6.0%	1	1.4%	6	7.2%	1	1.9%	4	9.8%
相談でき る人が身近 にいな い	4	2.7%	1	1.4%	2	2.4%	0	0.0%	4	9.8%
家族の ことだ から話 しにく い	7	4.7%	5	6.8%	4	4.8%	0	0.0%	3	7.3%
家族のことを 知られたくない	7	4.7%	1	1.4%	3	3.6%	1	1.9%	2	4.9%
家族に 対して偏見 を持たれ たくない	6	4.0%	4	5.4%	3	3.6%	0	0.0%	1	2.4%
相談し ても状 況が変 わると は思わ ない	20	13.4%	4	5.4%	7	8.4%	3	5.8%	8	19.5%
その他	1	0.7%	0	0.0%	1	1.2%	0	0.0%	0	0.0%
未回答	19	12.8%	9	12.2%	10	12.0%	8	15.4%	0	0.0%
全体	149		74		83		52		41	

- 相談経験が「ない」理由は、「相談するほど悩みではない」の割合が最も高く(70.9%)、次いで「家族以外の人に相談するような悩みではない」(11.5%)、「相談しても状況が変わるとは思わない」(10.5%)の順でした。
- 「その他」には、「わからない」「お父さんがいるから」が挙げられました。

問14. どのような方法で話を聞いてほしい、相談にのってほしいですか。
 (あてはまる番号すべてを選ぶ)

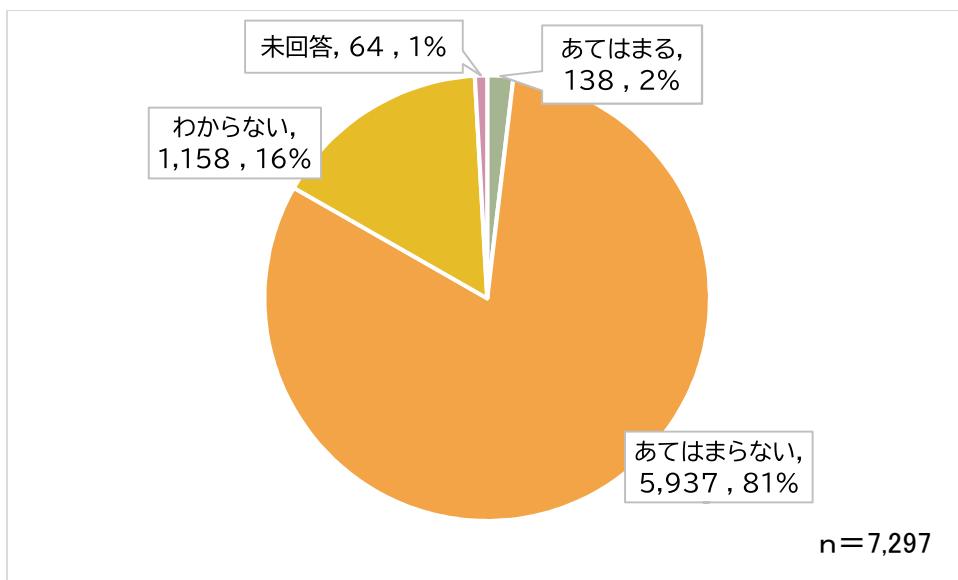


	小学5年生		小学6年生		中学1年生		中学2年生		中学3年生	
	人数	構成比								
直接会って	101	46.3%	55	46.6%	45	41.3%	33	42.3%	22	39.3%
電話	47	21.6%	22	18.6%	19	17.4%	6	7.7%	11	19.6%
SNS	10	4.6%	8	6.8%	8	7.3%	7	9.0%	13	23.2%
電子メール	12	5.5%	7	5.9%	5	4.6%	2	2.6%	6	10.7%
相談不要	13	6.0%	8	6.8%	12	11.0%	2	2.6%	4	7.1%
わからない	2	0.9%	0	0.0%	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%
その他	1	0.5%	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
未回答	61	28.0%	34	28.8%	40	36.7%	41	52.6%	20	35.7%
全体	218		118		109		78		56	

※家庭内にお世話の必要な人が「いる」と答えた回答者人数（n）を分母としています。

- 希望する相談方法は「直接会って」の割合が最も高く（44.2%）、次いで「電話」（18.1%）、「SNS」（7.9%）の順でした。
- 他の設問と比べると、未回答の割合が高くなっていました。
- 「その他」には、「置き手紙」「話を聞いてもらえるなら何でもいい」が挙げられました。

問 15. あなた自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思いますか。



	人数	構成比
あてはまる	138	1.9%
あてはまらない	5,937	81.4%
わからない	1,158	15.9%
未回答	64	0.9%
合計	7,297	

	小学5年生		小学6年生		中学1年生		中学2年生		中学3年生	
	人数	構成比								
あてはまる	42	2.8%	27	1.9%	33	2.1%	23	1.7%	13	0.9%
あてはまらない	1,064	70.1%	1,150	80.0%	1,289	82.8%	1,183	86.4%	1,244	88.5%
わからない	393	25.9%	240	16.7%	225	14.5%	152	11.1%	146	10.4%
未回答	18	1.2%	21	1.5%	10	0.6%	12	0.9%	3	0.2%
合計	1,517		1,438		1,557		1,370		1,406	

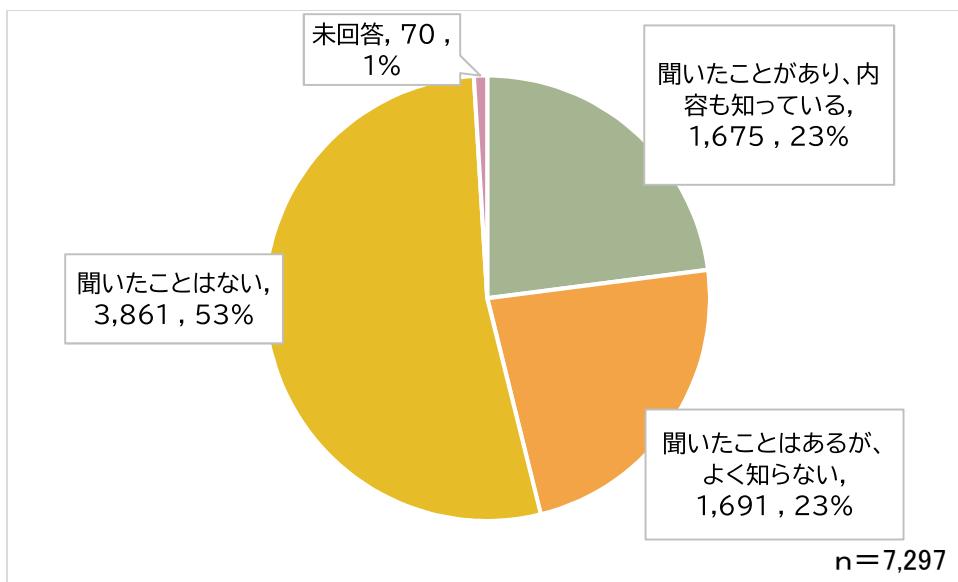
【国の先行調査との比較】中学2年生

国	八戸市
1.8%	1.9%

- 自分自身をヤングケアラーにあてはまると思うかどうかについて、81.4%が「あてはまらない」と回答しました。
- 中学2年生で「あてはまる」と回答したのは1.9%で、国の先行調査の1.8%とほぼ同じ割合となっていました。
- 「わからない」と回答した児童の割合は、学年が上がるにつれ低くなっています。

※県の調査では、「お世話が必要な家族がいる、かつ、お世話をしている人の中に自分を選択した」回答者をヤングケアラーと定義しています。

問 16. 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありましたか。

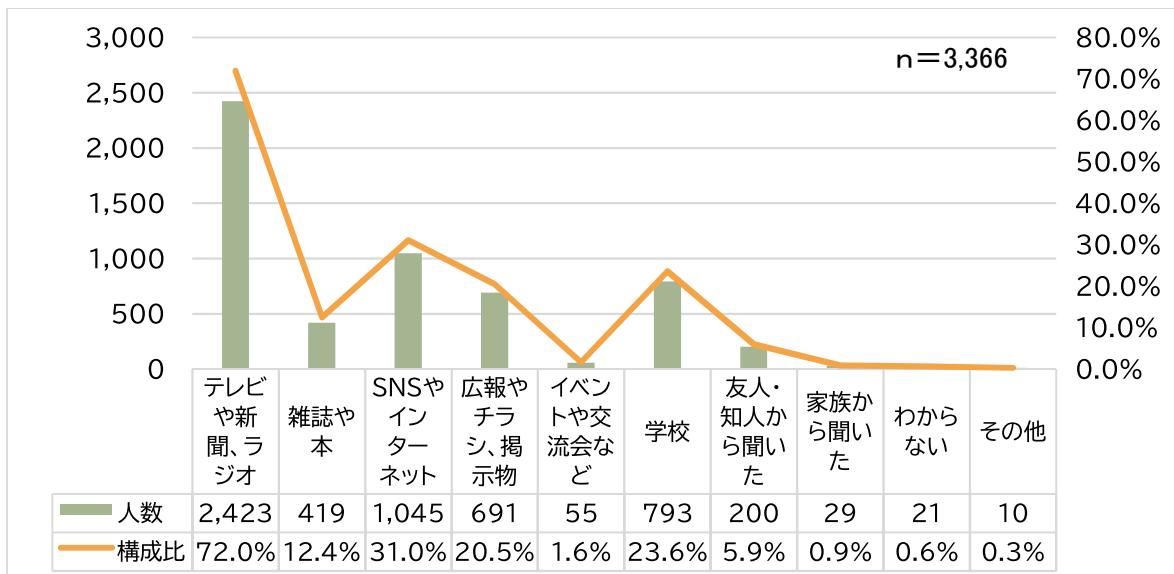


	人数	構成比
聞いたことがあります、内容も知っている	1,675	23.0%
聞いたことはあるが、よく知らない	1,691	23.2%
聞いたことはない	3,861	52.9%
未回答	70	1.0%
合計	7,297	

	小学5年生		小学6年生		中学1年生		中学2年生		中学3年生	
	人数	構成比								
聞いたことがあります、内容も知っている	155	10.2%	243	16.9%	345	22.2%	429	31.3%	501	35.6%
聞いたことはあるが、よく知らない	264	17.4%	320	22.3%	351	22.5%	400	29.2%	355	25.2%
聞いたことがない	1,083	71.4%	862	59.9%	843	54.1%	525	38.3%	542	38.5%
未回答	15	1.0%	13	0.9%	18	1.2%	16	1.2%	8	0.6%
合計	1,517		1,438		1,557		1,370		1,406	

- ・ヤングケアラーという言葉を「聞いたことはあるが、よく知らない」と「聞いたことはない」との回答を合わせると 76.1% の割合となりました。
- ・学年が上がるにつれ、「聞いたことはあるが、よく知らない」と「聞いたことはない」との回答割合は低くなり、「聞いたことがあります、内容も知っている」との回答割合は高くなっていました。

問17. 「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。(あてはまる番号すべてを選ぶ)



	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生					
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
テレビや新聞、ラジオ	262	62.5%	381	67.7%	523	75.1%	596	71.9%	659	77.0%
雑誌や本	63	15.0%	70	12.4%	81	11.6%	92	11.1%	113	13.2%
SNSやインターネット	55	13.1%	139	24.7%	198	28.4%	285	34.4%	366	42.8%
広報やチラシ、掲示物	100	23.9%	105	18.7%	148	21.3%	152	18.3%	186	21.7%
イベントや交流会など	10	2.4%	7	1.2%	18	2.6%	8	1.0%	12	1.4%
学校	82	19.6%	129	22.9%	158	22.7%	241	29.1%	182	21.3%
友人・知人から聞いた	25	6.0%	49	8.7%	44	6.3%	43	5.2%	39	4.6%
家族から聞いた	2	0.5%	7	1.2%	7	1.0%	5	0.6%	8	0.9%
わからない	6	1.4%	3	0.5%	2	0.3%	5	0.6%	5	0.6%
その他	3	0.7%	1	0.2%	1	0.1%	3	0.4%	2	0.2%
全体	419		563		696		829		856	

※問16で「聞いたことがあり、内容も知っている」「聞いたことはあるが、よく知らない」と答えた回答者人数（n）を分母としています。

- ・ヤングケアラーを知ったきっかけは「テレビや新聞、ラジオ」の割合が最も高く（72.0%）、次いで「SNSやインターネット」（31.0%）、「学校」（23.6%）の順でした。
- ・他の設問と比べると、未回答の割合が高くなっていました。
- ・「その他」には、「アンケートで」「もともとヤングケアラーだった」などが挙げられました。

3.3 調査結果（クロス集計）

お世話が必要な人数 × ヤングケアラーにあてはまると思うか

	未回答	1. あてはまる	2. あてはまらない	3. わからない	計
いない	34	96	5,759	891	6,780
	0.5%	1.4%	84.9%	13.1%	
1人	15	21	106	158	300
	5.0%	7.0%	35.3%	52.7%	
2人	8	14	47	53	122
	6.6%	11.5%	38.5%	43.4%	
3人	5	4	20	33	62
	8.1%	6.5%	32.3%	53.2%	
4人	1	1	3	16	21
	4.8%	4.8%	14.3%	76.2%	
5人	1	1	1	7	10
	10.0%	10.0%	10.0%	70.0%	
6人		1	1		2
		50.0%	50.0%		
計	64	138	5,937	1,158	7,297

- ・お世話が必要な人数については、全てのグループで、人数が増えると回答数は少なくなっていました。
- ・お世話が必要な人が家庭内にいないと回答した人のうち 1.4%が、自分がヤングケアラーにあてはまると回答しました。
- ・「あてはまらない」グループでは、お世話が必要な人数が増えると回答割合が低くなる傾向が見られました。
- ・「わからない」グループでは、お世話が必要な人数が「1人」「2人」「3人」の回答割合と比べると、「4人」「5人」の回答割合が高くなっています。

お世話の頻度 × ヤングケアラーにあてはまると思うか

	未回答	1. あてはまる	2. あてはまらない	3. わからない	計
未回答	41	98	5,775	893	6,807
	0.6%	1.4%	84.8%	13.1%	
1. ほぼ毎日	8	21	54	110	193
	4.1%	10.9%	28.0%	57.0%	
2. 週に3~5日	5	5	36	57	103
	4.9%	4.9%	35.0%	55.3%	
3. 週に1~2日	6	8	42	57	113
	5.3%	7.1%	37.2%	50.4%	
4. 1か月に数日	3	5	22	29	59
	5.1%	8.5%	37.3%	49.2%	
していない	1		7	5	13
	7.7%		53.8%	38.5%	
その他				2	2
				100.0%	
わからない				2	2
				100.0%	
時々			1	1	2
			50.0%	50.0%	
毎日		1		2	3
		33.3%		66.7%	
計	64	138	5,937	1,158	7,297

・お世話の頻度については、「あてはまる」グループでは「毎日」が最も高く(33.3%)、次いで「ほぼ毎日」(10.9%)、「1か月に数日」(8.5%)の順でした。

・「あてはまらない」グループの回答の割合は、「毎日」を除くすべての項目で「あてはまる」グループの回答の割合を上回っていました。

・「週に3~5日」「週に1~2日」「1か月に数日」と比べると、「ほぼ毎日」の項目の2グループのポイント差は小さくなっていました。

・「あてはまらない」グループでは、「週に3~5日」「週に1~2日」「1か月に数日」の回答割合にあまり差がありませんでした。

お世話の時間 × ヤングケアラーにあてはまると思うか

	未回答	1. あてはまる	2. あてはまらない	3. わからない	計
未回答	44	97	5,784	893	6,818
	0.6%	1.4%	84.8%	13.1%	
1. 1時間未満	15	19	80	130	244
	6.1%	7.8%	32.8%	53.3%	
2. 1時間以上～3時間未満	3	11	54	71	139
	2.2%	7.9%	38.8%	51.1%	
3. 3時間以上～5時間未満	1	5	7	36	49
	2.0%	10.2%	14.3%	73.5%	
4. 5時間以上～7時間未満	1	1	6	16	24
	4.2%	4.2%	25.0%	66.7%	
5. 7時間以上		5	6	12	23
		21.7%	26.1%	52.2%	
計	64	138	5,937	1,158	7,297

・お世話の時間については、「あてはまる」グループでは「7時間以上」が最も高く(21.7%)、次いで「3時間以上～5時間未満」(10.2%)、「あてはまらない」グループでは「1時間以上～3時間未満」が最も高く(38.8%)、次いで「1時間未満」(32.8%)でした。

・「あてはまらない」グループの回答の割合は、すべての項目で「あてはまる」グループの回答の割合を上回っていました。

お世話をしていることの影響 × ヤングケアラーにあてはまると思うか

	未回答	1. あてはまる	2. あてはまらない	3. わからない	計
1. 登校の問題		1	3	9	13
2. 遅刻・早退の問題		3	1	10	14
3. 勉強時間の問題	2	4	6	23	35
4. 睡眠時間の問題	1	3	10	29	43
5. 友人との時間の問題	1	4	12	21	38
6. 習い事の問題	1		1	4	6
7. 進路の問題		2	1	4	7
8. 余暇時間の問題		7	16	32	55
9. 特にない	17	28	132	198	375
わからない				1	1
その他		2	2	3	7

・全てのグループで、お世話をしていることの影響は「特にない」との回答が一番多くなっていました。

・全ての項目において、自分がヤングケアラーにあてはまるかどうか「わからない」との回答が一番多くなっていました。

・「特にない」「わからない」「その他」以外の項目で比べると、「あてはまる」グループより「あてはまらない」グループの回答数が多い項目が多くなっていました。

支援の要望 × 相談経験

	未回答	1. ある	2. ない	計
1. お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談		13 30.2%	30 69.8%	43
2. 家事やお世話を代わりにしてもらったり、手伝ってもらったりする (ヘルパーなど)	2 9.1%	7 31.8%	13 59.1%	22
3. 病院などに行くときに一緒に来てもらう	1 5.9%	7 41.2%	9 52.9%	17
4. 勉強を見もらったり、教えてもらったりする	1 1.9%	14 26.9%	37 71.2%	52
5. 食事の準備をしてもらったり、お弁当を届けてもらったりする (こども食堂での食事はのぞく)	2 10.5%	8 42.1%	9 47.4%	19
6. こども食堂		3 23.1%	10 76.9%	13
7. 居場所、サロン(ほかの人たちと一緒に話などができる場所)		4 22.2%	14 77.8%	18
8. 特にない	21 5.6%	48 12.7%	308 81.7%	377
わからない			1 100.0%	1

- ・ 支援の要望については、相談経験が「ある」グループよりも「ない」グループがすべての項目において高くなっていました。
- ・ 相談経験が「ある」グループでは、「食事の準備をしてもらったり、お弁当を届けてもらったりする」が最も高く（42.1%）、次いで「病院などに行くときに一緒に来てもらう」（41.2%）でした。

相談していない理由 × ヤングケアラーにあてはまると思うか

	未回答	1. あてはまる	2. あてはまらない	3. わからない	計
1. だれかに相談するほどのなやみではない	5 1.8%	15 5.3%	111 39.2%	152 53.7%	283
2. 家族以外の人に相談するようななやみではない	2 4.3%	4 8.7%	16 34.8%	24 52.2%	46
3. だれに相談するのがよいかわからない		1 4.8%	2 9.5%	18 85.7%	21
4. 相談できる人が身近にいない		1 9.1%	1 9.1%	9 81.8%	11
5. 家族のことだから話しにくい	3 15.8%	2 10.5%	14 73.7%		19
6. 家族のことを知られたくない	2 14.3%	3 21.4%	9 64.3%		14
7. 家族に対していやな思いを持たれたくない (家族が他の人から悪く思われないか心配)	3 21.4%	1 7.1%	10 71.4%		14
8. 相談しても状況が変わるとと思わない (相談してもお世話をすると生活は変わらないと思う)	4 9.5%	6 14.3%	32 76.2%		42
その他	1 50.0%		1 50.0%		2

- ・相談していない理由については、「あてはまる」グループでは「家族に対していやな思いを持たれたくない」が最も高く(21.4%)、「あてはまらない」グループでは「だれかに相談するほどのなやみではない」が最も高くなっていました(39.2%)。
- ・「あてはまる」グループでは、「誰か」または「家族以外」に「相談するほどの悩みではない」項目や相談相手に関する項目の回答割合と比べると、「家族のこと」であることに関する項目の回答割合が高くなっていました。

4 まとめと考察

4.1 調査結果のまとめ

4.1.1 ヤングケアラーと思われるこどもについて

家族の中にお世話が必要な人がいると回答した人が 579 人、そのうちお世話をしていることで自分の生活に影響が出ていると回答した人が 119 人いたことから、当市においても、支援を必要としている可能性のあるこどもがいることが改めて確認されました。

反面、家族の中にお世話が必要な人がいると回答した人 579 人のうち、お世話をしている事での自分の生活への影響は特にないと回答した人が 64.8%、自分はヤングケアラーにあてはまらないと回答した人が 34.4%いたことから、お手伝いの範囲で家族のお世話をしているこどもも一定数いると考えられます。

4.1.2 こども自身の認識について

お手伝いの範囲で家族のお世話をしているこどもも一定数いるとは考えられますが、お世話をしていることで自分の生活に影響が出ていると回答した人のうち、自分がヤングケアラーにあてはまると思うかという問い合わせについてわからないとの回答数が最も多かったことから、こども自身、自分の行っているお世話が、お手伝いの範囲なのかヤングケアラーの範囲なのか判別できていない可能性があると考えられます。

なお、「お世話の頻度×ヤングケアラーにあてはまると思うか」、「お世話の時間×ヤングケアラーにあてはまると思うか」の結果に一貫した傾向が見られないことから、お世話の頻度や時間の長短のみではヤングケアラー発見の指標とすることは難しいと推察されます。

ヤングケアラーについて「聞いたことはあるがよく知らない」と「聞いたことはない」と回答した人を合わせると 76.1%になることからも、ヤングケアラーの認知度向上に取り組むことが必要です。また、周囲の大人がヤングケアラーに対する意識を高め、こどもの様子からこどもや家庭の状況に気づき、必要な支援につながるきっかけ作りが重要であると言えます。

4.1.3 支援の要望と相談経験について

利用したいと思う支援サービスがある場合、サービス利用に向けて相談経験があるのではないかと推測しましたが、「支援の要望×相談経験」の結果は、利用したい支援サービスの全ての項目において、相談経験が「ある」グループよりも「ない」グループが高くなりました。

このことは、支援サービス利用希望の有無はこどもの相談意欲に影響を与えない可能性を示していますが、支援サービスの項目によって 2 グループのポイ

ント差に違いがあることから、利用できるサービスについての情報を子どもが知らない可能性や、サービスの内容によって相談のしにくさを感じている可能性も考えられます。

このため、ヤングケアラーについての周知啓発と併せて、当市で利用可能な支援サービスに関する情報や、相談機関ではいつでも相談にのれること、プライバシーを守り対応することなどを周知することが必要であると考えます。

利用したいと思う支援サービスとしては、最も回答数が多かったのは「学習のサポート」でした。また、相談歴のある子どもの相談相手は、家族、友人に次いで学校の先生が多いとの回答でした。

このため、福祉部門と教育部門との連携が重要であると考えます。

4.1.4 相談経験がない理由について

相談経験がない理由は「相談するほどの悩みではない」との回答割合が最も高くなりましたが、そのうち自分がヤングケアラーにあてはまると回答したグループでは、他の項目と比べて低い回答割合となったことから、自分がヤングケアラーだと認識している子どもの中には、相談したい気持ちや困り感があるものの相談にまで至っていない子どもがいる可能性が考えられます。

また、「相談しても状況が変わるとは思わない」との回答割合が3番目に高いものとなりました。

このため周囲の大人が、言葉でSOSを発信できていない子どもの様子から家庭の状況や困り感に気づくこと、支援についての情報を共有しこどもに提供できることが必要であると考えます。

自分がヤングケアラーにあてはまると回答したグループでは、「家族のことを知られたくない」や「家族に対していやな思いを持たれたくない」といった、家族のことだからという理由で相談経験がないとの回答割合が高になりました。

このことが、ヤングケアラーの課題が表面化しにくいこと、子どもが自分から相談しにくいことの要因の一つと考えられます。周囲の大人が、困り感を抱えながらも言い出せない子どもの相反する気持ちを理解し、いつでも話を聞くという姿勢を持ち続けることが重要であると考えます。

4.1.5 希望する相談方法について

希望する相談方法は「直接会って」との回答割合が最も高になりましたが、子どもにとって、自分から行政の相談窓口に直接相談することは、心理的にハーダルがが高いことが推測されます。

相談経験がない理由に「誰に相談するのがよいかわからない」との回答が5.3%あったことからも、相談窓口とその連絡先を周知することが必要です。併せて、電話など既存の方法以外に、子どもが相談窓口につながりやすい仕組み

作りが必要であると考えます。

4.2 今後の取組と課題

4.2.1 こども向けの啓発と相談対応

ヤングケアラーのこども自身がヤングケアラーであると気づけるようにするため、ヤングケアラーについての周知啓発を継続していく必要があります。

一方で、こどもの相談に対する動機づけや不安軽減を図る必要があると考えられることから、支援や相談窓口に関する情報提供の方法などについて検討が必要です。

また、こども自身が相談窓口であるこども家庭相談室へ直接連絡しやすい体制を整えるため、タブレット端末を活用した仕組みの構築に向け、教育委員会と連携して検討を進めます。

4.2.2 支援者向けの啓発

こどもが自分自身の状況を正確に判別できない可能性や、困り感はあっても自発的な相談は難しい可能性が考えられることから、周囲の大人が、こどもの様子からこどもや家庭の状況に気づく必要があると言えます。

また、相談にのってほしいと希望するこどもが一定数いる反面、相談しても状況が変わるとは思わないと考えることもいることから、こども自身のニーズに沿った対応が求められます。

そのためには、支援者である周囲の大人が、当事者の気持ちを含むヤングケアラーの実態や支援に関する情報を知ることが重要です。支援者に向けた周知啓発の効果的なあり方について検討を進めます。

4.2.3 関係機関との連携

こどもがヤングケアラーになり得る家庭は、複雑な問題を抱えていることが考えられるため、様々な分野の機関が協力・連携して支援していくことが必要です。

また、こどもにとって学校は、長い時間を過ごし、家族以外の大人と継続的に関わる場所であり、こどもの生活との関わりが深いことから、ヤングケアラーの早期発見やこどもとの関係づくりのためには、学校との連携が重要であると考えます。

そのため、要保護児童対策地域協議会を活用し、関係機関からこども家庭相談室への情報提供を呼びかけるとともに、こども家庭相談室は、関係機関の支援の状況を確認し、それぞれの機関の役割に応じて円滑に支援が行われるよう必要に応じて連絡調整を行います。

今後は、多分野にまたがる支援体制の構築とその強化に取り組みながら、ヤングケアラーに必要な支援が届くように努めてまいります。

このアンケートは、家族の世話について聞くものです。あなたが思っていることを正直に書いてください。
答えたくない場合には、無理して答える必要はありません。また、答えたとしても、あなたの家族に連絡が行くことはありません。安心して答えてください。

(八戸市 こども家庭相談室)

【このアンケートへの考え方】

1. 答えは、それぞれの問い合わせの後の当てはまる番号を選んでください。
2. 「その他」を選んだ場合は、()の中に自分で考えた答えを書いてください。
3. (あてはまる番号すべてを選ぶ)と書いてある問い合わせは、あてはまると思った番号をすべて選んでください。

1. あなたのこと

問1. あなたの学年を教えてください。

- 1. 小学5年生
- 2. 小学6年生
- 3. 中学1年生
- 4. 中学2年生
- 5. 中学3年生

問2. あなたがいつしょに住んでいるのはどなたですか。(あてはまる番号すべてを選ぶ)

- 1. お母さん
- 2. お父さん
- 3. おばあちゃん
- 4. おじいちゃん
- 5. 姉・兄
- 6. 妹・弟
- 7. その他 ()

2. 家族へのお世話のこと

問3. 家族の中にお世話をしている人はいますか。

(ここでいう「お世話」とは、ちょっとしたお手伝いではなく、ほんとうは大人がするような家事や家族の世話などのことです。)

- 1. いる
- 2. いない → 3. ヤングケアラーのこと(問15) へ進んでください。

※問4～問14は、問3で「1. いる」と回答した人にお聞きします。

問4. 家族でお世話をしている人はどなたですか。(あてはまる番号すべてを選ぶ)

- 1. お母さん
- 2. お父さん
- 3. おばあちゃん
- 4. おじいちゃん
- 5. きょうだい
- 6. その他 ()

問5. お世話を必要としている人の状況(お世話が必要な理由)について教えてください。お世話をする人が何人かいる場合には、あてはまる番号すべてを選んでください。

- 1. 高齢[こうれい](65歳以上)
- 2. 幼い
- 3. 介護[かいご](食事や身の回りのお世話)が必要
- 4. 認知症[にんちしよう]
- 5. からだに障がいがある
- 6. 知的障がいがある
- 7. 発達障がいがある
- 8. こころの病気(うつ病など) ※「そうかもしれない」もふくめる
- 9. 依存症[いぞんしょう](お酒やギャンブルなどをやめられず、生活に問題をかかえている)
※「そうかもしれない」もふくめる
- 10. 8、9以外の病気
- 11. 日本語が苦手
- 12. その他 ()
- 13. わからない

問6. あなたはお世話が必要な家族にどのようなお世話をしていますか。お世話をする人が何人かいる場合には、あてはまる番号すべてを選んでください。

- 1. 家事(食事のじゅんびやそうじ、洗たく)
- 2. 入浴やトイレのお世話
- 3. 買い物や散歩にいっしょに行く
- 4. 病院へいっしょに行く
- 5. 病院などにいる家族に会いに行く
- 6. 医りょう的なお世話(たんのきゅう引など)
- 7. 話を聞く(感じよう面のサポート)
- 8. 見守り
- 9. 通訳[つうやく](日本語が苦手な家族のために手紙や書類を読む、手話など)
- 10. お金の管理(せい求書のしほらい、銀行でのお金の出し入れなど)
- 11. 薬の管理(薬を飲んだか確かめるなど)
- 12. きょうだいのお世話や保育所などへの送りむかえ
- 13. その他 ()

問7. あなたはどのくらいお世話をしていますか。

- 1. ほぼ毎日
- 2. 週に3~5日
- 3. 週に1~2日
- 4. 1か月に数日
- 5. その他 ()

問8. 学校のある平日にどのくらいお世話をしていますか。

(日によってちがう場合は、この1か月の中で最も長かった日の時間をお答えください。)

- 1. 1時間みまん
- 2. 1時間以上～3時間みまん
- 3. 3時間以上～5時間みまん
- 4. 5時間以上～7時間みまん
- 5. 7時間以上

問9. お世話をしていることで自分の生活にどのようなえいきょうが出ていると思いますか。

(あてはまる番号すべてを選ぶ)

- 1. 学校に行きたくても行けない
- 2. 学校をちこく・そうたいしてしまう
- 3. 宿題をする時間や勉強する時間がとれない
- 4. ねる時間が十分にとれない
- 5. 友人と遊ぶことができない
- 6. 習い事ができない、または、やめなければならなかった
- 7. 進路(どこの中学校に行くかや将来のことなど)を変えようと思った、または、変えなければならなかった
- 8. 自分の時間がとれない
- 9. その他 ()
- 10. 特にない

問10. 次のうち、利用したいと思う支援サービスはありますか。(あてはまる番号すべてを選ぶ)

- 1. お世話を必要とする家族や、自分自身のことについての相談
- 2. 家事やお世話を代わりにしてもらったり、手伝ってもらったりする(ヘルパーなど)
- 3. 病院などに行くときに一緒に来てもらう
- 4. 勉強を見てもらったり、教えてもらったりする
- 5. 食事の準備をしてもらったり、お弁当を届けてもらったりする(こども食堂での食事はのぞく)
- 6. こども食堂
- 7. 居場所、サロン(ほかの人たちと一緒に話などができる場所)
- 8. その他 ()
- 9. 特にない

問11. お世話を必要としている家族のことや、お世話のなやみを誰かに相談したことはありますか。

- 1. ある →問12へ進んでください。
- 2. ない →問13へ進んでください。

問12. 問11で「1. ある」と回答した人にお聞きします。それは誰ですか。(あてはまる番号すべてを選ぶ)

- 1. 家族(お母さん、お父さん、おばあちゃん、おじいちゃん、兄弟、姉妹)
- 2. 親せき(おじ、おばなど)
- 3. 友人
- 4. 学校の先生(保健室の先生以外)
- 5. 保健室の先生

- 6. スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー
- 7. お医者さんや看護師さん、その他病院の人
- 8. ヘルパーさんやふくしサービスの人
- 9. 役所や保健センターの人
- 10. 近所の人
- 11. SNS(ラインやエックスなど)上の知り合い
- 12. その他 ()

問 13. 問 11 で「2. ない」と回答した人にお聞きします。相談していない理由を教えてください。

(あてはまる番号すべてを選ぶ)

- 1. だれかに相談するほどのなやみではない
- 2. 家族以外の人に相談するようななやみではない
- 3. だれに相談するのがよいかわからない
- 4. 相談できる人が身近にいない
- 5. 家族のことだから話しにくい
- 6. 家族のことを知られたくない
- 7. 家族に対していやな思いを持たれたくない(家族が他の人から悪く思われないか心配)
- 8. 相談しても状況が変わるとと思わない(相談してもお世話をする生活は変わらないと思う)
- 9. その他 ()

問 14. どのような方法で話を聞いてほしい、相談にのってほしいですか。(あてはまる番号すべてを選ぶ)

- 1. 直接会って
- 2. 電話
- 3. SNS(ラインやエックスなど)
- 4. 電子メール
- 5. その他 ()

3. ヤングケアラーのこと

ヤングケアラーとは、「ほんとうは大人がすると考えられている家事や家族の世話などを日常的に行っているこども」のことです。

こどもが家事や家族のお世話をすること自体は、悪いことではありませんが、勉強やこども自身がやりたいことができなくなってしまうことがあります。

問 15. あなた自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思いますか。

- 1. あてはまる
- 2. あてはまらない
- 3. わからない

問 16. 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありますか。

- 1. 聞いたことがあり、内容も知っている →選んだ人は問 17 も答えてください
- 2. 聞いたことはあるが、よく知らない →選んだ人は問 17 も答えてください
- 3. 聞いたことはない

※問17は、問16で「1」または「2」と回答した人にお聞きします。

問17. 「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。(あてはまる番号すべてを選ぶ)

- 1. テレビや新聞、ラジオ
- 2. 雑誌や本
- 3. SNS(ラインやエックス)やインターネット
- 4. 広報やチラシ、掲示物
- 5. イベントや交流会など
- 6. 学校
- 7. 友人・知人から聞いた
- 8. その他 ()

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

八戸市家族のお世話に関するアンケート調査 報告書

令和7年3月発行

八戸市こども健康部こども家庭相談室

〒031-0011 八戸市田向三丁目6-1 八戸市総合保健センター3階

電話：0178-38-0704 (直通)

Mail : kateisoudan@city.hachinohe.aomori.jp